

# 第 340 回金沢眼科集談会 プログラム

日時 平成 29 年 12 月 17 日 (日) 13:00~16:00

会場 金沢ニューグランドホテル 4F 金扇の間

〒920-8688 金沢市南町 4-1 電話:076-233-1311

連絡先:〒920-8641 金沢市宝町 13-1

金沢大学眼科学教室

電話 (076)265-2403 FAX (076)222-9660

## ご案内図



- ・ 参加費は 2,000 円です。
- ・ **集談会終了後、懇親会(会費無料)を予定しております。**
- ・ 本学会は専門医制度生涯教育事業(No.59003)として認定されております。
- ・ プロジェクターを一台用意いたします。パソコンはご自身のものをお持ち下さい。
- ・ 「眼科臨床紀要」に掲載しますので演者の先生は抄録(400字以内)をメールにてご提出下さいますよう、お願いいたします。

共催:金沢眼科集談会 参天製薬株式会社

## — 次回ご案内 —

平成 30 年 4 月 8 日(日)10:00~13:00 ホテル日航金沢にて開催の予定です。

## 一般講演

(13 : 00～13 : 30) 座長 うえだともこ コンソルボ上田朋子 先生 (富山大)

### 1. 透明水晶体眼の水晶体形状

み た のりひろ  
○三田哲大、関 祐介、高山綾子、渋谷恵理、北 舞、長田ひろみ、柴田伸亮、  
久保江理、佐々木 洋(金沢医大)

### 2. 手術に伴う繊維性物質の眼内迷入

すけがわとしゆき  
○助川俊之 (加賀市医療センター)

(13 : 30～14 : 00) 座長 ひろせまき 広瀬真希 先生 (福井大)

### 3. ゾレドロン酸水和物静注後に発症したぶどう膜炎

たかばたけ もえ  
○高 畠 萌、木村雅代(厚生連高岡病院)、竹本裕子(金沢大)

### 4. 全身麻酔下での手術に至った重症認知症患者における白内障手術症例の 後ろ向き調査

なかじまあきえ  
○中島秋恵、稲用和也(東京警察病院)

(14 : 00～14 : 30) 座長 かわかみ ゆたか 河上 裕 先生 (金沢医大)

### 5. 「加齢黄斑変性に対する抗VEGF薬単独療法の治療効果」

うえだともこ  
○コンソルボ上田朋子、中村友子、高田雄太、新田康人、林篤志(富山大)

## 6. 糖尿病黄斑浮腫における抗 VEGF 薬、ステロイド硝子体注射後の前房内フ レア値の変動

もりおかまさかず  
○盛岡正和、高村佳弘、山田雄貴、松村健大、後沢 誠、稲谷 大(福井大)

### 特別講演

すぎやま かずひさ  
座長 杉山 和久 (金沢大)

(14 : 30~15 : 15)

### 「視野検査を考える」

たじみ岩瀬眼科 院長 いわせ あいこ 岩瀬 愛子 先生

(15 : 15~16 : 00)

### 「IPS の歴史と視野検査の進歩」

近畿大学 教授 まつもと ちょうた 松本 長太 先生

## 「視野検査を考える」

たじみ岩瀬眼科 院長 岩瀬 愛子 先生

視野計用語に、SAPという言葉がある。Standard Automated Perimetry の略である。

1980年代に自動視野計が臨床に普及し始める前は、ゴールドマン視野計がSAPであった。

しかし、自動視野計はあっという間に、その簡便性と客観性を武器に、以降の約30年間、は臨床の主役となっている。しかし、その主役は、姿はあまりかわらないけれども、検査方法や解析方法は変わってきている。眼科医師側からみれば、ここで、緑内障診療に必要な条件は、なんだろうか？と考えてみた。StructureとFunctionの証明の手段であり、過去の治療の評価方法としての手段であり、未来を予測し治療方法を決定するための手段である。

私たちは、視野検査をどのように使用すべきか？どういう場面で、どういう戦略をもって診療にあたるべきか、立ち止まって考えてみたら、よりよい診療につながるのではないか？

今、そんな事を考えている。

## 「IPSの歴史と視野検査の進歩」

近畿大学 教授 松本 長太 先生

視野研究の歴史は非常に古い。1970年代に入り、当時急速に進歩したコンピュータ技術を背景に自動視野計開発に関する基礎研究が始まった。今までにないコンピュータを用いた視野検査アルゴリズム、測定結果の統計的解析を含め、自動視野計に関する様々な知識の共有、研究発表の場が求められ、1974年に国際視野学会（International Perimetric Society, IPS）が設立されMarseillesにて第1回が開催された。その後、IPSは隔年ごとにヨーロッパ、アメリカ、アジア、オセアニアで開催され、我が国でも1978年に第3回（東京：松尾治亘）、1992年に第10回（京都：北澤克明）、2008年に第18回（奈良：松本長太）が担当した。そして来年2018年には、第23回IPSが杉山和久、岩瀬愛子会長のもと金沢で開催される。一方、我が国においてもIPSの日本組織という背景から1980年に日本視野学会の前身である日本視野研究会（Japan Perimetric Society, JPS）が設立され、2011年までの31年間、視野に関するさまざまな研究活動がJPSを通して行なわれてきた。そして、2011年に日本視野学会が設立、2012年に多治見市にて第1回学術集会が開催された。来年度には第7回学術集会がIPSと合同で大久保真司会長のもと開催される。

IPSやJPSで発表された視野に関する研究は多岐にわたる。視覚生理学、心理物理学に基づく基礎的研究、自動視野計を含めた様々な視野測定法、解析法の開発、各種機能選択的視野測定法の開発など視野測定そのものに主眼をおいた研究から、緑内障をはじめとする各種眼疾患の機能的病態把握、機能と構造の対応評価、そしてその原点ともいえる眼底視野計の開発など、我が国にオリジナリティのある研究も設立当時から精力的に行われてきた。

本講演では、IPSと視野研究の歩みを振り返りながら、最近の視野検査の進歩について述べる。本講演を通して視野研究の面白さを皆様と共有できれば幸いである。